

樺台春秋 初夏のころ

ここ雄和地域でも田植えは終盤を迎えた。水を張った圃場に青空が反射し、農家の人たちが田植えをする姿はまるで空に苗を植えているようである。最も好きな田園風景の一つである。農村地帯の住んでいることを実感できる時でもある▼私たちの樺台カントリークラブにも5月の爽やかな風が吹いている。温暖化の影響だろうか、気温が上がると、汗ばむこともあり、もう初夏といってもいい季節になった。本当に天候に恵まれた日は気持ちよくゴルフができるし、ゴルフができる幸せをかみしめている。まさに風薫る5月である▼ただ樺台は高台にあることもあって、時折強風に見舞われることもある。そうするとコースの顔は一変する。フォロー、アゲインスト、横風……。風を計算して、クラブを選択、細心の注意を払ってのプレーとなる。しかしこれもまたゴルフである。自然との闘いこそがゴルフのだいご味と話すプレーヤーも多い▼晴れた日が続けばプレーヤーには喜ばれるが、ゴルフ場にとっては雨も大切。夜雨が降って、朝には晴れるというのが理想的だが、そんなに上手くはいくはずもなく、雨中のラウンドという日もある。「やばっちー」と話しながら上がってくるプレーヤーの皆さんにはなんだか申し訳ない気持ちになってくる。話は少し横道にそれるがこの「やばっちー」という秋田弁は標準語に直すとどう表現するのか。知っている方がいれば教えてほしい▼まもなく「やばっちー」梅雨の季節を迎える。しかしコースは一面綺麗な緑色に覆いつくされ、霧雨程度であれば幻想的な風景の中でのプレーを堪能できると確信している。季節季節にそれぞれの楽しみ方があるはずである▼この季節になると、若かったことよく聴いていた松田聖子さんの「レモネードの夏」を思い出す。♪冷えたレモネード 白いカフェーから揺れる木漏れ日を見たの あとあなたに逢えればもう一足早い夏♪ 樺台のレストランではレモネードは提供していないが、レストランからも初夏を感じさせる風景が楽しめる。